

1 低炭素社会の実現

家庭での取り組み

H17 (基準年)	H23	H24	H25		H32 (目標)
環境家計簿等の診断件数 (件／年度)					
0	259	103	89		200
達成度 (%)	129.5	51.5	44.5		100
住宅用太陽光発電システムの設置戸数 (基)					
310	673	842	998		1,310
達成度 (%)	51.4	64.3	76.2		100

● 日常生活のエコ



省エネ相談所

個々の家庭でのエコ活動を進めるため、まいづる環境市民会議(34ページ参照)が、赤れんがフェスタin舞鶴2013で「家庭の省エネ相談所」を開設し、来場者への無料診断を実施しました。

「家庭の省エネ相談所」は、市民の皆さんの省エネへの取り組みや、月々の光熱費(電気代、ガス代、灯油代、ガソリン代)から算出された各家庭の二酸化炭素排出量を、平均のデータと比較し、スタッフが家庭での省エネの取り組みをアドバイスする取り組みです。

また、より詳しい省エネ診断として、環境省委託事業の「うちエコ診断」の取り組みも始めています。

● 地産地消による食卓のエコ

地産地消は、生産地から食卓までの輸送距離が短い地場の生産物を食べることで、輸送に伴って発生するCO₂排出量を減らす効果があり、地域活性化や食育とともに、環境の面からも大切な取り組みです。

平成19年度から、地元産の魚やお米、季節の野菜を学校給食で使用しているほか、授業でも地元生産者さんの講義を聴く機会を設けています。また、平成24年度からは、京都府内であつた食材だけで一食分の給食を作る「まるごときょうとの日」に取り組んでいます。

● 住まいのエコ

住宅に太陽光発電システムを設置される市民の皆さんを対象に補助金を交付する制度を平成22年度に創設。平成25年度は、63件の利用がありました。

なお、太陽光パネルの設置コストの低下や固定価格買取制度などにより、補助制度による普及の段階が終わったと考えられるため、平成25年度をもって同制度を終了しました。平成25年度末において、市内の太陽光発電システム設置基数は998基、補助制度の利用件数は424件でした。

事業所での取り組み

H17 (基準年)	H23	H24	H25		H32 (目標)
大規模排出事業者の省エネ法による削減目標 (t-CO ₂ /年度)					
314,916	268,895 	293,467 	268,696 		283,626
達成度 (%)	105.5 	96.6 	105.6 		100
市内事業者の環境マネジメントシステム導入件数 (事業所)					
12	43 	50 	49 		252
達成度 (%)	17.1 	19.8 	19.4 		100
省エネルギー、新エネルギー技術の導入支援件数 (件/年度)					
0	3 	8 	1 		10
達成度 (%)	30 	80 	10 		100

● 省エネに向けた取り組みの促進

市内の温室効果ガスの大規模排出事業者では、省エネルギー法や京都府地球温暖化対策条例で特定事業者の指定を受け、省エネや排出量削減の取り組みを進めています。

市役所でも、「舞鶴市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定し、市の事務事業から排出される温室効果ガスの削減に取り組んでいます。ごみ焼却から排出される温室効果ガスが全体の4割を占めることから、市民とともにごみの減量化・リサイクルに重点を置いて取り組むとともに、電気使用量の抑制、時間外勤務の削減、冷暖房温度の設定遵守、アイドリングストップなどを進めた結果、第1期計画期間で17.5%、第2期計画期間で9.2%の削減を達成しました。引き続き平成26年度からは、第3期計画期間の取り組みを進めています。

舞鶴市役所の温室効果ガス排出量(二酸化炭素換算)

第1期計画(平成16～20年度の5カ年計画) 実績値 (単位: t-CO₂)

H14	H16	H17	H18	H19	H20		H20
28,048 【基準】	26,499 【1年目実績】	26,340 【2年目実績】	24,000 【3年目実績】	24,949 【4年目実績】	23,136 【最終年実績】	...	26,786 【策定時の目標】
基準年との比較	5.5%減	6.1%減	14.4%減	11.1%減	17.5%減		目標:4.5%減

第2期計画(平成21～25年度の5カ年計画) 削減目標値 (単位: t-CO₂)

H19	H21	H22	H23	H24	H25		H25
21,892 【基準】	21,400 【1年目実績】	21,753 【2年目実績】	20,675 【3年目実績】	20,128 【4年目実績】	20,306 【5年目実績】	...	21,434 【策定時の目標】
基準年との比較	2.2%減	0.6%減	5.6%減	8.1%減	9.2%減		目標:2.1%減

第3期計画(平成26～30年度の5カ年計画) 削減目標値 (単位: t-CO₂)

H24		H30
26,215 【基準】		24,668 【策定時の目標】
基準年との比較		目標:5.9%減

※ 各計画ごとに排出係数が異なっているため、実績と基準年の温室効果ガス排出量が異なります。
また、第3期計画から、指定管理施設が計画の対象に含まれています。

資料 市生活環境課

1 低炭素社会の実現

● 省エネの仕組みの活用

環境マネジメントシステムは、事業所が環境負荷の少ない事業活動に自主的に取り組むための仕組みのことです。

市内の事業所の環境マネジメントシステムを活用した環境への取り組みを支援するため、まいつる環境市民会議と協働での普及活動のほか、平成23年度からは認証を取得した事業所への補助制度を設けています。

国際規格であるISO14001のほか、KES、エコアクション21、エコステージなどが補助の対象となります。平成25年度は2件の利用がありました。

● 省エネルギー、新エネルギー技術の導入

市内の事業者の環境対策を促進するため、「中小企業地球温暖化対策特別融資（舞グリーン）」と「中小企業環境対策設備導入促進補助金（舞グリーン・プラス）」を設け、新エネルギーや省エネルギー設備、低公害車、LED設備、屋上緑化の導入等に対する融資・補助を実施しています。平成25年度末までに12件の利用がありました。

交通対策の取り組み

H17（基準年）	H23	H24	H25		H32（目標）
電気自動車（EV・PHV）の普及台数（台）					
0	13	26	45		10,000
達成度（%）	0.1 	0.3 	0.5 		100
電気自動車急速充電器の設置数（基）					
0	2	3	3		10
達成度（%）	20 	30 	30 		100

● クリーンエネルギー車の普及

温室効果ガスや排気ガスの排出削減と道路騒音の低減に有効なクリーンエネルギー車の普及促進のため、電気自動車の急速充電器を1基、市役所本庁前に設置。24時間・365日、無料で利用いただけます。会員登録等は必要ありません。

舞鶴市域にはこのほか、京都日産自動車㈱西舞鶴店（下福井）、東舞鶴店（南浜町）及び京都三菱自動車販売㈱舞鶴店（京田）、ハヤシオートサービス（鹿原）にも設置されています（平成27年3月現在）。利用条件等の詳細は、京都府のホームページ（京都府充電インフラネットワーク（急速充電器設置場所））をご覧ください。



市役所充電器

また、市の公用車に電気自動車を1台配備し、市民の皆さんからの応募作品を車体にラッピングしています。赤れんがフェスタin舞鶴2013では、「クリーンエネルギー自動車展示試乗会」を開催し、来場者にEV、PHVやガス自動車の試乗を体験していただきました。

平成25年度からは、電気自動車（EV・PHV）と、電気自動車から家庭へ電力を供給する設備の導入支援補助金を設けており、電気自動車の購入補助で16件の利用がありました。



展示試乗会

エコドライブ10のすすめ

- 1. ふんわりアクセル「eスタート」** 発進するときは、穏やかにアクセルを踏んで発進しましょう（最初の5秒で、時速20km程度が目安です）。日々の運転において、やさしい発進を心がけるだけで、10%程度燃費が改善します。焦らず、穏やかな発進は、安全運転にもつながります。
- 2. 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転** 走行中は、一定の速度で走ることを心がけましょう。車間距離が短くなると、ムダな加速・減速の機会が多くなり、市街地では2%程度、郊外では6%程度も燃費が悪化します。交通状況に応じて速度変化の少ない運転を心がけましょう。
- 3. 減速時は早めにアクセルを離そう** 信号が変わるなど停止することがわかったら、早めにアクセルから足を離しましょう。そうするとエンジンプレーキが作動し、2%程度燃費が改善します。また、減速するときや坂道を下るときにもエンジンプレーキを活用しましょう。
- 4. エアコンの使用は適切に** 車のエアコン（A/C）は車内を冷却・除湿する機能です。暖房のみ必要なときは、エアコンスイッチをOFFにしましょう。また、冷房が必要なときは、車内を冷やしすぎないようにしましょう。たとえば、車内の温度設定を外気と同じ25℃に設定した場合エアコンスイッチをONにしたままだと12%程度燃費が悪化します。
- 5. ムダなアイドリングはやめよう** 待ち合わせや荷物の積み下ろしなどによる駐車の際は、アイドリングはやめましょう（※1）。10分間のアイドリング（エアコンOFFの場合）で、130cc程度の燃料を消費します。また、現在の乗用車では基本的に暖機運転は不要です（※2）。エンジンをかけたらすぐに出発しましょう。
※1：交差点で自らエンジンを止める手動アイドリングストップは、以下の点で安全性に問題があるため注意しましょう。（自動アイドリングストップ機能搭載車は問題ありません。）
 - ・手動アイドリングストップ中に何度かブレーキを踏むとブレーキの効きが悪くなります。
 - ・慣れないと誤動作や発進遅れが生じます。またバッテリーなどの部品寿命の低下によりエンジンが再始動しない場合があります。
 - ・エアバッグなどの安全装置や方向指示器などが作動しないため、先頭車両付近や坂道での手動アイドリングストップは避けましょう。※2：-20℃程度の極寒冷地など特別な状況を除き、走りながら暖めるウォームアップ走行で充分です。
- 6. 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう** 出かける前に、渋滞・交通規制などの道路交通情報や、地図・カーナビなどを活用して、行き先やルートをあらかじめ確認し、時間に余裕をもって出発しましょう。さらに、出発後も道路交通情報をチェックして渋滞を避ければ燃費と時間の節約になります。たとえば、1時間のドライブで道に迷い、10分間余計に走行すると17%程度燃料消費量が増加します。
- 7. タイヤの空気圧から始める点検・整備** タイヤの空気圧チェックを習慣づけましょう。タイヤの空気圧が適正値より不足すると、市街地で2%程度、郊外で4%程度燃費が悪化します（適正値より50kPa（0.5kg/cm²）不足した場合）。また、エンジンオイル・オイルフィルタ・エアクリーナエレメントなどの定期的な交換によっても燃費が改善します。
- 8. 不要な荷物はおろそう** 運ぶ必要のない荷物は車からおろしましょう。車の燃費は、荷物の重さに大きく影響されます。たとえば、100kgの荷物を載せて走ると、3%程度も燃費が悪化します。また、車の燃費は、空気抵抗にも敏感です。スキーキャリアなどの外装品は、使用しないときには外しましょう。
- 9. 走行の妨げとなる駐車はやめよう** 迷惑駐車はやめましょう。交差点付近などの交通の妨げになる場所での駐車は、渋滞をもたらします。迷惑駐車は、他の車の燃費を悪化させるばかりか、交通事故の原因にもなります。迷惑駐車のない道路では、平均速度が向上し、燃費の悪化を防ぎます。
- 10. 自分の燃費を把握しよう** 自分の車の燃費を把握することを習慣にしましょう。日々の燃費を把握すると、自分のエコドライブ効果を実感できます。車に装備されている燃費計・エコドライブナビゲーション・インターネットでの燃費管理などのエコドライブ支援機能を使うと便利です。